

## I. 要約

本研究は、2000年から2010年までの「スポーツ活動に関する全国調査」および2001年から2009年までの「10代の運動・スポーツに関する全国調査」を二次分析し、主な13種目について成人および青少年の運動・スポーツ実施率の推移やニーズとの関連を明らかにした。本研究の結果は、以下のように要約される。

- 1) 成人の年1回以上の実施人口は、2000年調査では「ボウリング」(1,960万人)が最も多く、次いで「水泳」(1,189万人)、「ゴルフ(コース)」(1,096万人)、「スキー」(846万人)、「卓球」(624万人)であった。また、2010年調査では「ボウリング」(1,381万人)、「ゴルフ(コース)」(934万人)、「水泳」(742万人)、「バドミントン」(701万人)、「登山」(509万人)の順であり、2000年調査と上位3種目は同様であるが、10年間で実施人口は減少の傾向が示された。
- 2) 成人の週1回以上の実施人口は、2000年調査では「水泳」(374万人)が最も多く、次いで「バレーボール」(169万人)、「テニス(硬式)」(151万人)、「野球」(147万人)、「バドミントン」(143万人)であった。2010年調査において「水泳」(213万人)、「バレーボール」(145万人)、「テニス(硬式)」(140万人)、「野球」(119万人)、「バドミントン」(104万人)の順となり、いずれも減少の傾向が示された。
- 3) 2010年調査における成人の年1回以上の実施率をみると、上位2種目の「ボウリング」が13%、「ゴルフ(コース)」が9%、3位の「水泳」、4位の「バドミントン」がおよそ7%であり、5位以下では5%に達しない状況であった。また、週1回以上の実施率は上位種目においても1~2%にとどまる実態が明らかとなった。
- 4) 青少年(10代)の年1回以上の実施人口は、2001年調査では「水泳」(409万人)が最も多く、次いで「バスケットボール」(394万人)、「サッカー」(339万人)であった。2009年調査では「サッカー」(321万人)が最も多く、「バスケットボール」(319万人)、「バドミントン」(277万人)と続き、2001年からの8年間ですべての種目において実施人口は減少していることが明らかとなった。
- 5) 青少年(10代)の週2回以上の実施人口は、2001年調査では「バスケットボール」(109万人)が最も多く、次いで「サッカー」(93万人)、「野球」(90万人)であったのに対し、2009年調査では「サッカー」(129万人)、「バスケットボール」(125万人)、「野球」(115万人)と続き、多くの種目において横ばい、あるいは増加傾向にあることが示された。